



今、アイヌであること

—共に生きるための政策をめざして—

国会で採択された「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」(2008)以来、アイヌ政策への取組が進められておりますが、この背景には「先住民族の権利に関する国際連合宣言」(2007)があります。現在、アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会による報告(2009)を受けて、アイヌが先住民族であるという認識に基づく政策展開や、民族共生の象徴となる空間の整備が計画されています。これらの政策が実現するためには、多様な文化と民族の共生が尊重されなければなりません。共に生きるための政策とは何か、どのようにすれば実現するのか、このシンポジウムはこれらの問題を考えます。多数のご来場を期待しております。

2011年3月6日(日) 13:00-17:00
法政大学市ヶ谷キャンパス
58年館(富士見校舎) 844号室



開会挨拶
山本真鳥 (日本学術会議会員、地域研究委員会人類学分科会委員長、法政大学教授)

講演
本多俊和 (日本学術会議連携会員、放送大学教授)
「世界の先住民族、日本の先住民族」
佐々木利和 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授)
「一つの列島、二つの国、三つの文化」
常本照樹 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター長)
「アイヌ政策と多文化共生」
篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長)
「アイヌ民族の自然人類学研究とその課題」

コメンテーター
加藤忠 (北海道アイヌ協合理事長) ほか
窪田幸子 (日本学術会議連携会員、神戸大学教授)

閉会挨拶
斎藤成也 (日本学術会議会員、統合生物学委員会自然人類学分科会委員長、国立遺伝学研究所教授)

司会
竹沢泰子 (日本学術会議連携会員、京都大学教授)
佐野賢治 (日本学術会議連携会員、神奈川大学教授)

<主催>
日本学術会議第一部地域研究委員会人類学分科会
第二部統合生物学委員会自然人類学分科会

<共催>
京都大学人文科学研究所
「人種表象の日本型グローバル研究」プロジェクト
北海道大学アイヌ・先住民研究センター
法政大学国際日本学研究所

申込不要。詳細・要旨はこちら↓
<http://race.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>

<お問い合わせ先>
京都大学人文科学研究所・竹沢泰子研究室
Mail: jinshu@zinbun.kyoto-u.ac.jp